

平成28年5月度 定例自然観察会

六甲山自然案内人の会

実施日：平成28年5月8日（日）

天気：晴れ

担当：5班

テーマ：明治の寒天場の裏山を歩く

参加人員：ビジター48名（小児1名含む）、会員37名 合計85名

コース：渦森台バス停～高羽道～寒天山道～油こぶし出合～六甲ケーブル山上駅

配布資料：ルートマップ、植生一覧表、寒天山道の由来

タイム：                    9：30 集合 ルート説明 班分け  
                              9：45 出発  
                              10：50 送電鉄塔（出発から3本目）  
                              11：30 小広場(昼食)  
                              12：00 出発  
                              13：40 油コブシ出合  
                              14：20 六甲ケーブル山上駅（解散）

概要：

日曜日のバスの混雑が予測されたため、出発時に、解散場所を当初予定の記念碑台から六甲ケーブル山上駅に変更することを説明し、ビジターの皆さんの理解を得た。

ビジターの皆さんを4班に分け、各講師は1班堀池会員、2班新谷会員、3班林会員、4班吉野会員とし、その後を会員グループが続いた。

送電鉄塔沿いの道は、比較的足場が悪いが、足元にはクサイチゴ、ニガイチゴや、シハイスミレ、ナガバナタチツボスミレが目立った。ツクバネウツギとコツクバネウツギが咲いており、両者の違いを萼片の数で説明した。

寒天山道に入ってから、ムベやアケビの花が多く、オシベ、メシベの細かい話にも、ビジターの皆さんは熱心に耳を傾けていた。カゴノキとアカメガシワが並んで生えているところでは、木肌の違いを実感していただけた。

やや早い昼食をとり、休憩時には寒天山道の名前の由来や、大正時代には活況であった寒天場の話を興味深く聞いてもらった。

12時に出発し、七曲りの道を進むが、斜面のきついところもあり、注意を呼びかけながら1列になって歩いた。フジが満開で、澄み切った青空に映えていた。途中でヤマツツジとミヤコツツジが並んで咲いており、ビジターの皆さんには絶好のシャッターチャンスであった。寒天山道も終わりに近づくとアセビ林が増え、根元にはササしか生えない光景に、ビジターの皆さんも改めて自然の不思議に感心されていた。

13時40分、寒天山道と油コブシ道分岐に到着し、小休止後、六甲ケーブル山上駅を目指して出発した。歩いて10分、シロバナウンゼンも満開であった。

14時20分、無事に六甲山上駅に到着し、解散とした。帰途をケーブル利用にすることで、十分に時間が取れ、比較的短いコースを丁寧に案内することができた。

健脚なビジターさん方のお陰で、けが人も無く無事観察会を終えることができた。ご参加いただいた皆様方、ありがとうございました。

報告者 鳥居 修





満開のフジ



ヤマツツジとミヤコツツジ